

別紙1「第4回羽村市長期総合計画審議会 委員の意見等

議事(1) 市民意見聴取の結果について

No	委員名	意見・感想等
1	和田委員	町内会・自治会活動は、現在コロナの影響により、ずいぶん低下している。また、会自体も高齢者が多く、加入率については年々低下し、今では30%をきってしまうのではとも思われる。 一般市民向けワークショップ(結果)まとめで、グループ3の意見にもあるように、どんどん参加してもらいたい。また、年間行事についても積極的に来場してもらいたい。若い年代のパワーが必要とされている。お願いします。
2	中村委員	どのワークショップも活発な若さ溢れた内容に未来を感じた。「集うことの大事さ」を実感した。
3	佐藤委員	BBQ場についての記載 多摩川のそば、駅にも近い。とても魅力のある資源がある。活用を積極的にするとさらに良くなると思う。
4	池上委員	「はむらん」の本数を増やし、高齢者等が移動しやすい環境を整えてほしいという要望が強いことが分かる。
5	池上委員	「歩道」を安全で歩きやすい道に!という要望が出ている。 「道路が広い」と感じた人がいる反面、「道路の起伏がガタガタ」と感じている人もいて、地域差のあることがわかる。
6	池上委員	子育て世代向けワークショップに参加した家族は、その後も交流を続けていることが分かり、市で開催するイベントの意義を感じた。 「つながる」ことはとても大事である。
7	池上委員	「子連れでも行きやすい図書館」「病児保育・病後児保育が頼みやすい」「学童の預かり時間が長い」「助産院が近くにある」など、子育て世代にとって魅力な点が多いと感じた。
8	伊藤委員	今回実施した市民意見聴取の取組みは、それそのものが行政の取組みとしてユニークであり、羽村の“強み”を感じた。 一方、こういったものに参加する方は、行政への関心が一般よりも高いと考えられるので、“普通の人”をこういった取組みに巻き込む方法も検討していけると良いと思う。
9	成沢委員	・ワークショップについて 以前に参加した羽村市の若者向けワークショップではファシリテーターが素晴らしく、生産的な意見交換の場となっていた。 こういう場はより多くの方に、若者だけでなく幅広い年齢層に体験して頂きたい。
10	成沢委員	・10年後の羽村市を考える 10年後を考える際の参考になるであろう資料がいくつかある。 (1) 羽村市の人口ピラミッド そのままスライドさせると、おおよそ当たっている10年後の人口ピラミッドになり、ここに計画している羽村市に転入した子育て世代を加えると、目指している姿が浮かび上がる。 そこから高齢化率、労働人口を算出して羽村市の歳入歳出予測をしたり、すでにそういう人口ピラミッドになっている自治体を探したりすると、何かしら参考になる。 (2) 国の方策 最近では2030年代半ばにすべての新車を電動化するという発表があり、またその前には観光収入をGDP比で20%?(←記憶が不確か数字は怪しい)を目指すという発表があった。 国が目指すと言えば間違いなくその方向に進むので、羽村市についても観光客が利用する宿が増えたり、EV用充電ステーションが増加したりと、10年後の姿がある程度見えてくる。(コロナの影響で観光業については予定通りの進行は難しそうだが…) 上記(1)、(2)以外にも確実に来る未来があるので、そのような情報も交えることで、より有効で具体的なアイデアを出すことができると思う。

No	委員名	意見・感想等
11	成沢委員	・10年後の羽村市を考える 隣の青梅を見ていると一度は青梅を離れたが、また戻ってきた若者などが映画館を作るなど新しい事業を起こしている。そこでいわゆる若者、馬鹿者、よそ者が地域を活性化させると言われるように、外国人や羽村にまた戻ってきた人、海外を見てきた人などを集めてワークショップを行ってみてはどうか。
12	木下智実委員	感想になるが、町内会のシステムを思い切って変えることはできないのだろうか？ということである。機能低下した町内会をいかに活性化させるかという点を大事にしている方が多くいるように思うが、すでに「昔のシステム」である町内会システムなどはむしろ廃止することも視野に入れてよいと考える。ただ、廃止をした際には、新しいシステムを作り出す必要があるだろう。そのような思い切った舵をきることができるか、それがこれからの自治体に求められていると考える。 新しいシステムにおいては、例えば、市民から有志メンバーを集めるなど目的意識を大事にした集団を構築することはできないか。資金に関しては、今まで自治会費（現状、年間1人約3000円が約5万人、約1億5000万円の資金）として集めていた市民からのお金を、その目的に賛同してくれる事業に投資する、すなわち、クラウドファンディングのような形に変えてしまうことも考えられる。市民からのクラウドファンディングで町を変えていく、そのような発想があってもよいかと思う。 コロナ禍を経験した私たちにとって、新しい地域のあり方を模索する必要があるが、それもかなり「突っ込んだ」次元で考えることが重要であると思う。そうでなければ、何も変わっていかず、現状維持で精一杯だろう。
13	木下智実委員	人口を増やすためには、行政サービスのあり方を抜本的に見直す必要があると考える。「羽村市は他の自治体と違って、こんなに便利なのか」と思わせるサービス、そのアイデアはまだ乏しいが、例えば、すべてスマホで完結する公的手続き（よりマイナンバーを生かして時間の制約を少なくするなど）、通信事業者とタイアップした通信環境の充実（行政のバックアップにより羽村市全体が超高速回線につながる）など、あってもよいのではないか。
14	木下智実委員	全体を通して、感じてしまうことは、羽村市にはこれといった魅力が少ないということである。これまでの遺産を活用する試みも必要だが、思い切って新しい魅力を創設することが重要であり、とにかく、他の自治体が思いもつかない目玉となる魅力を作ることが重要であると思う。参考例としてですが、もし既存のものを生かすのであれば以下のようなアイデアを提案する。（コロナ収束後の展開を狙いたい） 春：花と水、水田に超巨大イースターエッグの設置 夏：サンバにまみれる羽村夏祭り、 秋：仮装した市民によるハロウィンフェスタ 冬：冬をあたためる激辛と鍋のフェスタ（羽村駅前を出店、現状、激辛フェスタがありますが、苦手な方が多いと聞きます） キャッチ：「季節による楽しみがあふれる町、HAMURA」 「水が違う、ワクワクが違うHAMURA～町づくりの主役は市民のみなさん！～」
15	平野委員	こうした広聴機会はまちづくりの過程で欠くことのできない重大な意義あるものと考えている。 このような機会のさらなる創出と継続に大いに期待する。 この結果報告内容を参考に、羽村市の未来づくりに対しての自身の要望を再考し、提案についてもさらに熟慮していきたい。
16	平野委員	・シティプロモーションに関して 羽村市は認知度が低い/PRが弱い等を懸念する意見が複数回登場していた。現行のシティプロモーション事業は、主に市外に向けて展開している状況か。 もし羽村市民の目に届きにくいところでPR活動が盛んである場合、残念ながら羽村市民には認識されにくいので「あまりPR頑張っていない」印象になるのではないか。 「羽村市行政はシティプロモーションに大変力を入れている。市民としても、口コミPRなどに協力しよう」という共働きの方向へもっていくことが理想的であると考えている。そのためには何がこれから必要だろうか。

No	委員名	意見・感想等
17	平野委員	<p>・『土日に仕事をしている親でも参加できるイベントを～』の意見に関して、土日こそ絶対に出勤日となる業種の羽村市民も一定数いるはずなので、大人も楽しめる内容のイベント等は平日開催の増加を促進してほしい。</p> <p>また、これに関連した要望として、市内の主な公共施設が月曜や祝翌日に定休日となっているために、職場の定休日がそれと重なる市民は、公共施設の利用機会を著しく損なわれている。曜日基準ではない休館日設定を積極的に検討していただきたい。</p> <p>例えば、毎月3日とそれと同じ曜日がその月の休館となるなど。</p>
18	平野委員	<p>・市内レジャーに関して 「キャンプ・BBQ場がほしい」との意見があった。それらはぜひ、多摩川沿いに存在することを個人的にも望んでいる。</p> <p>市内市外利用者ともに、羽村の自然美観エリアを体験していただく最高のチャンスになりえる。指定管理者により運営される施設として、誘致するのも良策なのではないか。</p>
19	片山委員	<p>市の税収の減少に対して、具体的に何をしていくかを検討した内容が必要と思う。</p>